事業所名 放課後等デイサービスPEACE

公表日 令和7年1月29日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	個々の特性を考慮し、活動に応じて、児童が利用するスペースを部屋ごとに分けている。	今後も児童が安心して療育に集中出来るように環境の整備を整えていきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	人員配置では規定の職員を配置している。また、経験のある専門知識を持った職員を配置している。	今後も様々な研修に参加し、より専門性、質の高いサービスを提供出来るように努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	活動内容はスケジュールを提示し、確認している。また、活動する部屋、担当職員に関しては写真、カードを用いて確認をしている。古民家をリノベーションし活用している為、入り口に段差が生じている。必要に応じては間に踏み台を用いている。廊下には手すりを設置している。	活動スケジュール提示方法は特性に応じてその都度検討し、より理解しやすい提示方法を提供する。 必要に応じて段差のある箇所に踏み台を設置する予定である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	来所時には手洗手順書を提示し、確認しながら手洗いをを行い、手指消毒を行っている。手洗い場にはペーパータオルを設置している。館内は細目の換気を徹底し、空気清浄機を可動している。また、送迎車両も含め、アルコール消毒、次亜塩素酸ナトリウム等で消毒活動を実施している。	今後も継続して行きたい。 また、定期的に児童も含めた衛生管理について学ぶ機会を設けて行きたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	個室での部屋が3部屋ある為、個々の特性を考慮し、活動に応じて児童が利用するスペースを部屋ごとに分けている。(個室での対応。)	集団療育では大きな部屋を活用しているが個々の特性に合わせ、集団が難しい場合は適時、個別で対応出来るよう柔軟性を高める。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	0	必要に応じて会議を実施している。日々、職員間で情報共有、意見交換を行っている。	今後は定期的に会議を行い、マニュアルを徹底し、各部門で連携を図り、業務改善に務める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	常に保護者様に状況をお伝えし、意向を聞き取り、支援に繋げるように取り組んでいる。	職員間の情報共有において漏れないように様々な伝達ツールを用いて、統一した支援が出来るように努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	適時、会議等の話せる場を設け、職員間で意見交換出来る環境を整えている。様々な貴重な意見を統一し、必要に応じて改善し、実施するように心掛けている。	一つ一つの意見を尊重し、偏りがないように取り入れ、より良い支援が出来るように取り組んで行きたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	0	様々な方面からの評価、確認を行い、改善に繋げている。	様々な助言をまとめ、当事業所で可能な限り改善に努める。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	外部研修、事業所内での研修に参加し、伝達する機会や意見交換を行う時間を設けている。事例検討もを行い、対応力、質の向上を図っている。	今後も、積極的に様々な研修に参加し、個々の知識を高めていく取り組みを行う。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	個々の特性に応じて、カスタマイズし、総合的な支援をおこなっている。また、書面等で提示し、説明を行っている。	より分かりやすいようにHPに提示して行きたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成しているか。	8	0	定期的な面談を実施し、普段のお子様のご様子や保護者様のニーズに合わせて個別支援計画書を作成している。	正確に児童の状態を把握し、支援計画書を作成し、必要に応じて相談を行い、意見をまとめ反映して行く。また、日頃保護者様との情報収集、共有する。
	13	児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	必要に応じて、会議を行い、情報収集、共有し、職員が同じ方向性で支援が出来るように話し合い、実践している。また、アプローチをかけた後の振り返りも行っている。	定期的に支援の見直しを行い、検討していく。
	14	児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	計画に基づいて支援を行っている。適時、変更が必要かどうか見直しも行っている。	常に職員間で児童の様子に応じた、支援が適切かどうかの話し合いを積極的に行って行きたい。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	保護者様には連絡票をお渡しし、職員間ではその日の支援記録を作成し、常に状況を確認出来るようにしている。	今後も書面だけでなく、日々会話する際にも（送迎時等）現状をお伝えができるように心掛けていきたい。
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	児童の状況、ご本人、保護者様のニーズ等も聞き取った上で、お子様にとって必要な支援項目が設定されており、具体的な内容も踏まえ、作成されている。	ご本人、保護者様に分かりやすいように提示し、説明を行うようにする。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	活動プログラムの内容に関しては職員からの意見を取り入れ、役割分担し、チームで作り上げている。	役割分担の際に偏りが出ないように助け合っており取り組んでいきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	児童の特性や状況を踏まえ、プログラムを通して様々な経験が出来るように取り組んでいる。	活動プログラムで挑戦したが難しかった際には、スモールステップで取り組める内容を多く、立案し、提供して行きたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	8	0	児童の状況、特性に合わせて個別活動と集団活動を取り入れ、課題に向けてアプローチする支援内容を作成している。	適時、柔軟な対応が出来るように取り組む。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	その日の支援内容や役割分担について確認する機会を設けている。利用する児童の状況や変化を職員全体が把握出来るようにしている。	今後も密に確認を行い、その日の調子を踏まえ、支援を行えるように取り組む。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	送迎時に知り得た情報やその日に気づいた内容を話し合える機会を設けている。	情報収集し、迅速に対応できるように心掛ける。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	日々の支援に関しては記録を取り、必要に応じて見直しを図る事で、より良い支援を提供出来るように取り組んでいる。	今後も小さな気付きを見落とさないように職員間での確認を徹底する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	6か月ごとにモニタリングを実施している。定期的な個別懇談だけでなく、緊急時の際は支援会議を実施し、支援計画の見直しもしている。	適切な支援を提供出来るように児童の状況を把握し、支援計画を見直す。必要に応じては関係機関と連携し、支援に必要な情報収集に努める。
	24	【放デイのみ】 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	8	0	ガイドラインに基づき、内容を組み合わせ、社会生活を見据えた支援を行っている。	ガイドラインを把握し、偏りが無いように総合的な支援を心掛ける。
25	【放デイのみ】 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	日頃から支援プログラムの中に自己選択、自己決定が出来る機会を提供している。	意見を聞き出せる風通しの良い環境を整える。	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	積極的にトライアングルプロジェクト、担当者会議に参加し、児童の状況を様々な方面から情報収集している。	引き続き積極的に参加し、ケースに合った情報を提供出来るように取り組む。	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	関係機関と連携を図り、支援に活かす取り組みを行っている。	今後も関係機関と連携を図り、専門的な分野からの情報も反映して行く。また、当施設の情報も正確に伝達出来るように工夫して行く。	
28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8	0	児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてはアドバイス等を受けている。	研修等がある場合は積極的に参加して行きたい。	
29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	1	他の事業所と年2回合同行事を実施している。また、地域の清掃活動にも参加している。	今後はこども園、放課後学童クラブ、地域の行事にも積極的に参加して行きたい。	
30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	日頃から送迎時、必要に応じては連絡を取り、その日の変化、新たな課題、出来た事等を細かく説明を行うように心掛けている。	今後も密に連絡を取り、共通理解を深め、保護者様にも安心してご利用頂ける環境を整えて行く。	
31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	個別での支援方法等を伝達する事は出来ている。	定期的に保護者様が参加出来る行事（合同行事、研修、話し場等）を検討して行く。	

関係機関や保護者との連携	32	【 児発事業所・児発センターのみ 】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			該当なし	該当なし
	33	【 児発事業所・児発センターのみ 】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			該当なし	該当なし
	34	【 児発センターのみ 】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。			該当なし	該当なし
	35	【 児発センターのみ 】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			該当なし	該当なし
	36	【 児発センターのみ 】(自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			該当なし	該当なし
	37	【 放デイのみ 】学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	8	0	学校のオープンスクール、行事等の情報を提供して頂き、積極的に参加している。また、下校時間の変更や学校でのご様子を聞き取る等情報共有している。	各学校と密に連携を図り、可能な限り行事等にも参加して行きたい。
	38	【 放デイのみ 】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	2	児童発達支援事業所とは情報共有を行うように心掛けている。就学前の情報に関しては相談支援専門員の方から情報を頂いている。	今後は就学前に利用されていた機関と直接、情報共有出来る機会を設けて行きたい。
	39	【 放デイのみ 】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2	必要に応じて、情報を提供している。	積極的に移行される障害福祉サービス事業所へ見学し、必要な情報を提供して行きたい。
保護者への説明等	40	【 放デイのみ 】(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	8	0	自立支援協議会(子ども支援連絡会)をはじめ、放課後等デイサービス連絡会等に参加している。	
	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	保護者様には契約時に説明を行っている。支援プログラム内容に変更があった際はその都度、伝えていく。	年度事や必要に応じて、変更がある為、その都度、書面化し、理解しやすいように伝える工夫を行う。
	42	児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	計画書を作成するにあたり、保護者様の意向やニーズはもちろん、お子様の気持ちや意思も尊重し、お子様にとって適切な支援計画を作成している。	
	43	「児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	定期的に個別懇談会等で計画を提示し、説明を行い、意向の確認をした上で同意を頂いている。	
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	定期的な個別懇談会の他に、電話やメール、送迎時の際に些細な事でも聞き取り、助言等を実施している。	迅速な対応を心掛けて行きたい。
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	8	実施していない。	保護者会や父母同士やご兄弟が参加できるイベントの企画が少ない為、交流できるイベントを検討して行く。
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	相談や苦情があった際は迅速に対応するように心掛けている。内容によっては関係機関と連携を図り、保護者様全体にも周知し、公的機関(市役所等)にも報告を行っている。	今後、相談、苦情があった際は再発防止の為に改善策を検討して行く。
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	会報(お便り)やSNS等で配信している。	HPをリニューアルし、追加して配信する事を検討して行く。
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報取り扱いに関してマニュアルに基づき、鍵のついた書庫で管理している。	今後も厳重に取り扱い、漏洩や紛失がないように徹底する。
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	個々の特性に合わせ、意思伝達方法を考え、配慮している。	今後も口頭を主体とせず、絵カード、文字等紙面での説明を行い、より分かりやすい内容で伝える。
50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	個別で地域の方に行事、作業療育等で参加して頂く機会を設けている。また、町のクリーン作戦にも参加している。	個別だけでなく、地域の方と交流出来る機会を検討する。	

	51	<u>【放デイのみ】</u> 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	悩み相談等は迅速に対応するように心掛けている。必要な場合は関係機関と連携を図る。	今後も迅速にご家庭に合わせた助言や解決策をお伝え出来るように心掛ける。
非常時等の対応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	各マニュアルに沿って、定期的に会議や研修、訓練等を実施している。	保護者様により分かりやすく周知出来るようにHP等にも投稿するように検討している。
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	業務継続計画では感染、災害共に年1回の見直しをかけ、定期的に避難経路の確認や訓練を実施している。	最新情報に基づいて見直し出来るように情報収集にも力を入れる。また、備品などの使用期限、賞味期限等も見落とさないようにする。
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	当施設の看護師が状況把握し、職員に伝達する形となっている。また、保護者様から頂いた情報も円滑に周知出来るように心掛けている。	
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	食物アレルギーに関しては保護者様より、情報を頂き、医師の指示書に基づき、対応をしている。	今後、食物アレルギーのあるお子様が通所する際も厳重に把握し、内容によっては直接、主治医と連携を図る。
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	安全管理マニュアルに基づき、必要に応じて研修、訓練、見直しを行っている。	随時、お子様の安全を確保出来るように研修、訓練を重ね、事故防止に努める。
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	児童の安全管理に関する事項を日頃から職員間や保護者様に共有している。	今後も職員間での共有だけでなく、積極的に保護者様にも周知して行く。
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハット報告書を活用し、適時、会議を行い、再発防止対策を立案している。	職員間でも風通しの良い環境を整備し、ヒヤリハットの内容を共有し、事故防止に努める。
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	外部の虐待防止研修、内部の虐待防止研修等、年2回実施し、職員全体が参加している。	実際にあったケースに基づいての研修も積極的に実施して行く。
	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0	身体拘束マニュアルに基づき、契約時、面談時に十分に説明を行い、重要事項説明書や個別支援計画書にも記載している。	定期的にマニュアルを見直し、研修を実施する。定期的に説明を行い、再度了解を得る。